

Mr. Bassman (ベースマン列伝) Vol.43

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変……。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥くとももの凄い名演・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えらるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Miroslav Vitous 【ミロスラフ・ヴィトウス】



Photo: Clara Salina

Profile

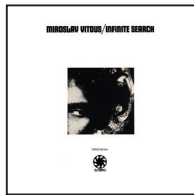
1947年12月6日、チェコスロバキア・ブラハ生まれ。6歳でヴァイオリン、10歳でピアノを始める。14歳から本格的にコントラバスを習い始め、フランチェスコ・ボシュタに師事。その後、ジャズに傾倒していき、66年ウィーンで開催された「国際ジャズ・コンクール」のベース部門で優勝。パーカー音楽大学に進学。66年後半に渡米。68年にチック・コリアの『ナウ・ヒー・シングズ、ナウ・ヒー・ソフズ』に参加し、超絶的なプレイが目される。68~70年までハービー・マンのグループに参加。69年初リーダー作『限りなき探究』を発表し、その存在感を決定的にした。この頃、短期間ながらマイルス・デイヴィスのバンドにも参加。70年ウェイン・ショーターに新バンドの結成を持ち掛けるが、ウェインは既にジョー・ザヴィヌルと新バンドの構想を練っており、それに加わる形で71年にウェザー・リポートが誕生。5作目『ミステリアス・トラヴェラー』を最後にウェザー・リポートを脱退。その後、ECMに移籍し、ソロ作品を発表。93年から心身疲弊を理由に演奏活動を休止。その間、オーケストラ・サウンド・サンプル『ミロスラフ・フィルハーモニック』を完成させる。2003年に約10年振りのリーダー作『ユニバーサル・シンコペーションズ』発表。68歳を迎えた現在も精力的に音楽活動を続けている。

ウェザー・リポートの初代ベーシストでもある凄腕ベースマン

チェコスロバキア出身のベーシストといえば、ミロスラフの他にジョージ・ムラーツがいるが、チック・コリアの『ナウ・ヒー・シングズ、ナウ・ヒー・ソフズ』での超絶プレイでジャズ・ファンの度肝を抜き、一躍その名を世に知らしめたミロスラフ。ミロスラフといえば、ウェザー・リポートと共に語られることも多く、ウェザー・リポートの歴代のベーシストの中ではジャコ・パストリアスの人気と知名度が最も高いが、ミロスラフこそがウェザー・リポートの創設メンバー&初代ベーシストである。1993年からの活動休止期間に、私財50万ドルと8年間を費やして、ミロスラフが長年に渡ってレコーディングしてきたサンプル素材とオーケストラ楽器に最適化されたプラグイン・エンジンを統合したオーケストラ・ワークステーション『ミロスラフ・フィルハーモニック』を完成させ、オーケストラ・ライブラリー音源の大ヒット商品となっている。

MV's Great Albums

ウェザー・リポートの『ライヴ・イン・トーキョー』やウェイン・ショーターの『スーパー・ノヴァ』、ハービー・マンの『メンフィス・アンダーグラウンド』等での名演もお薦めです。



限りなき探究

ミロスラフ・ヴィトウス

(ワーナーミュージック：WPCR-25038)

ミロスラフがハービー・マンのプロデュースで1969年に録音した初リーダー作品。ミロスラフのベースの魅力が最大限にフィーチャーされた名盤。



ミロスラフ

ミロスラフ・ヴィトウス

(Arista Freedom：AF-1040 [Import LP])

ミロスラフとドン・アラリアスのデュオがメインでアーメン・ハルバリアンが1曲で参加。ミロスラフはピアノとシンセも披露。6曲収録。1977年録音。



ユニバーサル・シンコペーションズ

ミロスラフ・ヴィトウス

(ユニバーサルミュージック：UCCE-1034)

2003年に約10年振りに発表し、話題を呼んだリーダー作。チック・コリア、ジョン・マクラフリン、ジャック・ディジョネット等が参加。2000~2003年録音。



ナウ・ヒー・シングズ・ナウ・ヒー・ソフズ

チック・コリア

(ユニバーサルミュージック：UCCU-99089)

ミロスラフの名を知らしめた超絶&驚異的なテクニックが光るチック・コリアの名盤。斬新なピアノ・トリオ作。ドラムはロイ・ヘインズ。1968年録音。